

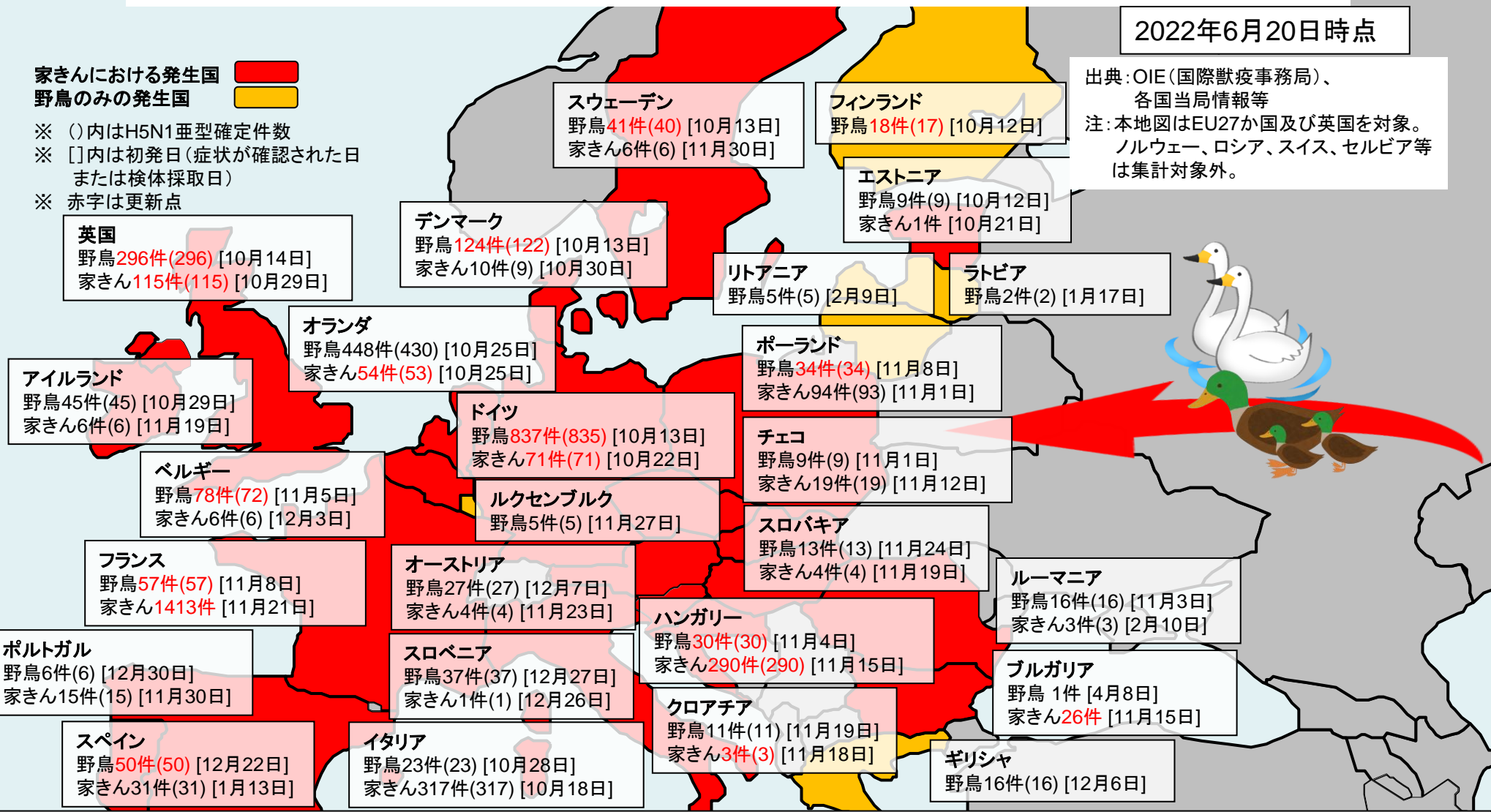
欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年10月以降)

2022年6月20日時点

家きんにおける発生国 ■
野鳥のみの発生国 ■

- ※ ()内はH5N1亜型確定件数
- ※ []内は初発日(症状が確認された日または検体採取日)
- ※ 赤字は更新点

出典: OIE(国際獣疫事務局)、各国当局情報等
注: 本地図はEU27か国及び英国を対象。ノルウェー、ロシア、スイス、セルビア等は集計対象外。



【今シーズンの発生に関するFAO(国連食糧農業機関)の見解】
ヨーロッパ西部で渡り鳥にH5亜型のHPAIが確認されており、渡り鳥の飛行ルート上にある国では侵入リスクが高い。
9月中旬にロシア南東部の野鳥からH5N1 HPAIが検出されたのを皮切りに、ウイルスが西方に移動していることが報告されている。

【今シーズンの発生に関するEC(欧州委員会)の見解】
夏にロシアのカザフスタン国境付近の野鳥及び家きんにおいてH5N1 HPAIが発生。
9月末にチェコで確認されたH5N1ウイルスは、2021年の春から夏に欧州で確認されたH5N1ウイルスとは異なる遺伝子型であった。